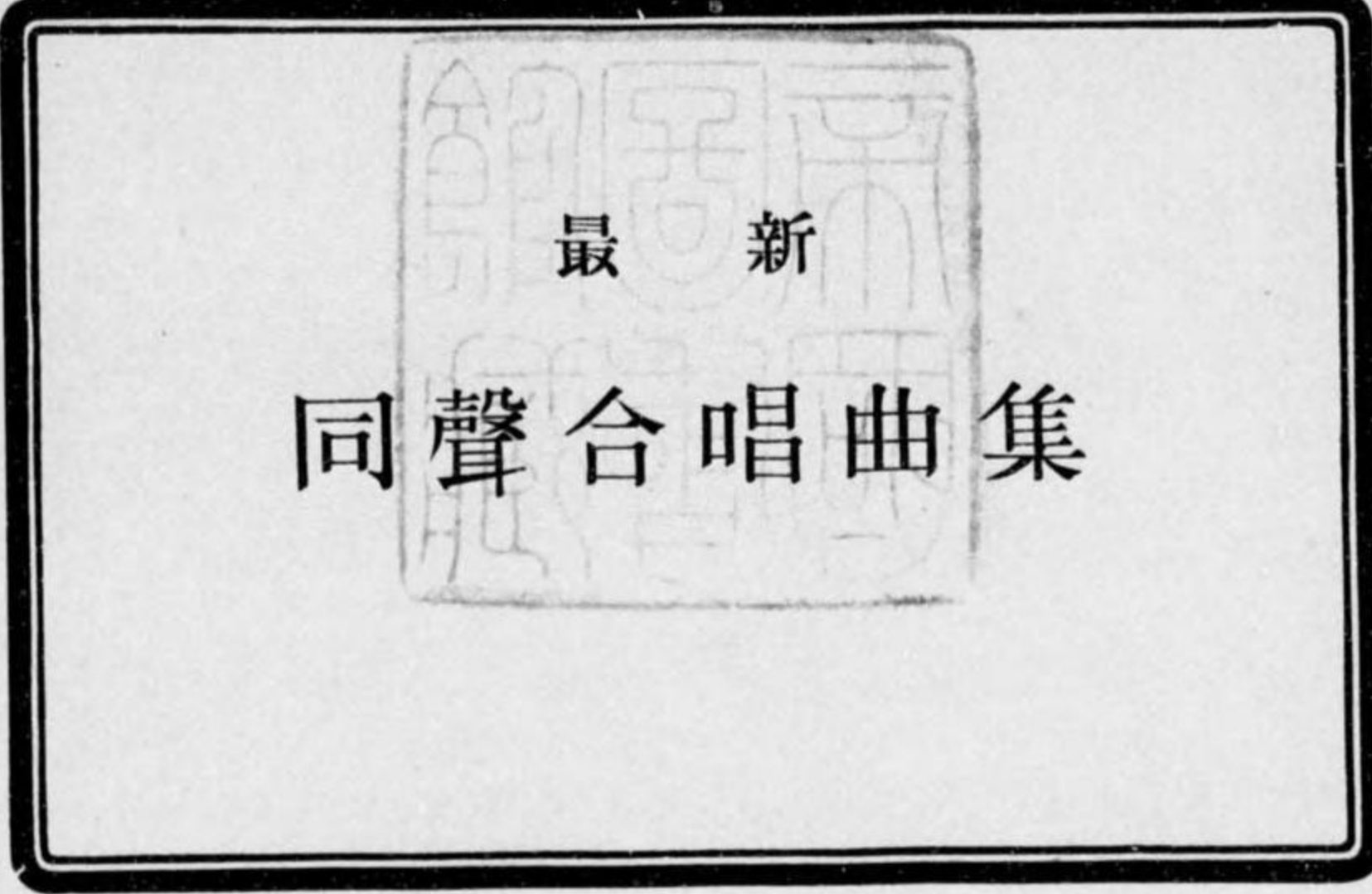


特270
499

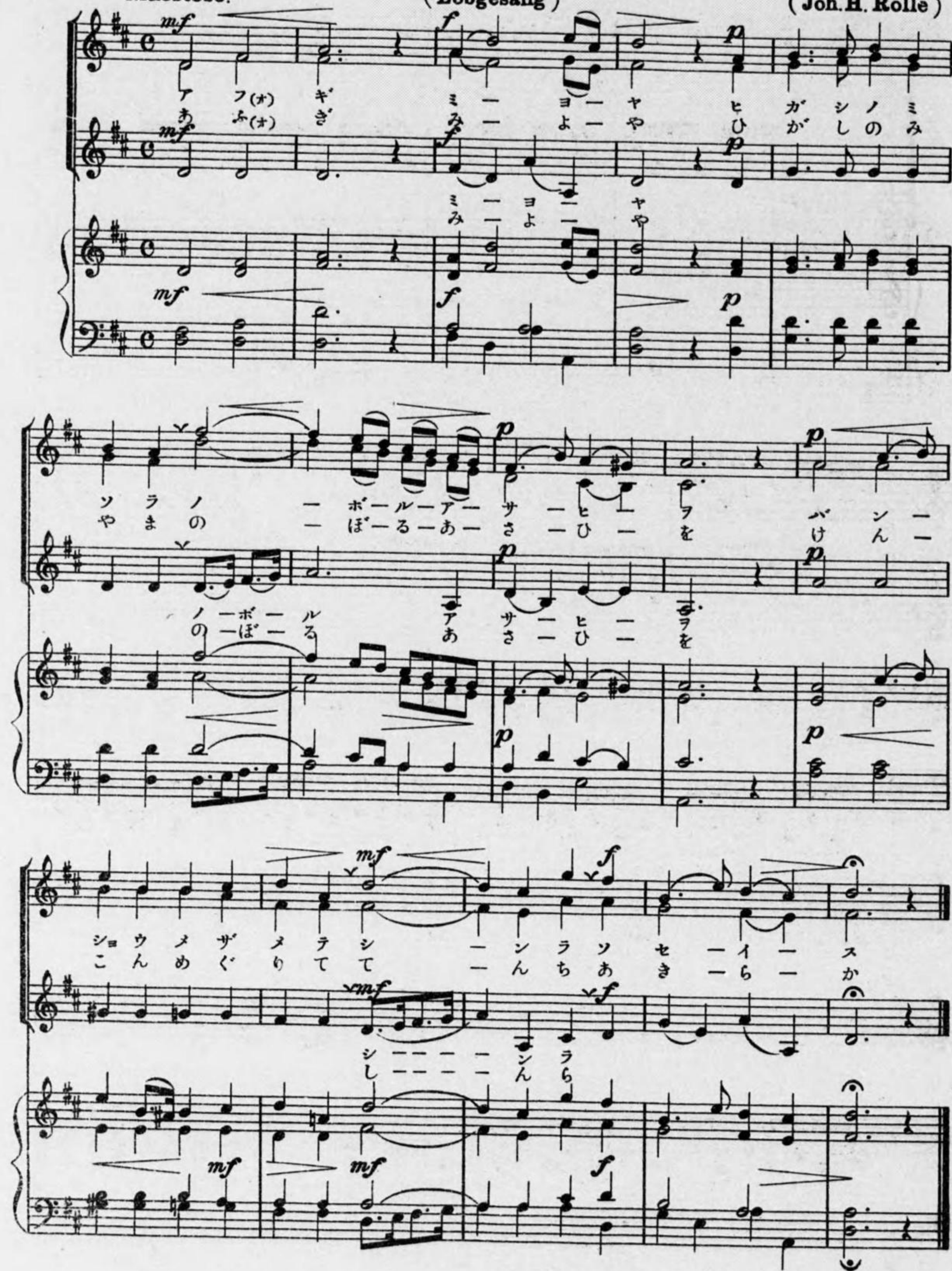


旭

Maestoso.

(Lobgesang)

(Joh.H. Rolle)



雲雀

Allegro.

(Mendelssohn)



(本曲使用ノ便宜上特ニ同一作歌者ノ(軟景色)ノ歌詞ヲ添附セリ)

ア ヤ ニ シ キ オ は ー バ ー

ぬ く も の の か み ー に は ー ー る み つ か ひ の う

ハ モ ミ チ シ テ ア ヤ ー ニ ー シ キ ヤ マ ガ キ モ イ

も ー の の あ ま つ か み に は ー ー る み つ か ひ の う

ミ ー チ シ テ ア ヤ ヤ ニ シ キ オ レ ー バ ヤ マ ガ キ モ イ

マ タ マ ミ ネ ー ニ サ ラ ー シ

か げ は そ ら ー に か く ー れ

た ひ め か か げ は か く れ こ ゑ は つ

ロ ツ キ テ マ タ マ サ ラ シ コ が ネ タ

た ひ め か か げ は そ ら に か く れ こ ゑ は つ ち に お

ロ ツ キ テ マ タ マ ミ ネ ニ サ ラ シ コ が ネ タ ニ ニ カ

ち ー に お つ ー る ひ と け ー り テ カ へ ー ル サ ー ク ー の へ ー の あ ー ま ー つ ー か ー み ー に ー は

ニ ー ニ カ サ ー ル タ ケ カ リ テ カ へ ー ル サ ー ク ー の へ ー の あ ー ま ー つ ー か ー み ー に ー は

ら ー る ひ と ー し ー ら ぬ く も ー の へ ー の か ー み ー に ー は

ザ ル タ ケ ー ガ リ テ カ へ ー ル サ ー ノ ヒ ト ー ノ ー

へ ー る み つ か ひ の う た ひ め か か げ は そ ら に か

ウ タ ヒ ト ム ラ ノ シ ゲ リ タ ル モ リ チ コ エ テ ヒ コ ソ

へ ー る み つ か ひ の う た ひ め か か げ は か

ウ タ ヒ ト ム ラ ノ シ ゲ リ タ ル モ リ チ コ

く ー れ こ ゑ は つ ち に お つ ー る こ ー こ ー ろ た か け し

エ ー に ー ひ ー か ー け ー れ

く ー れ こ ー ゑ は つ ー ち ー に お つ ー る こ ー こ ー ろ た か け し

エ ー テ シ ラ ー ー ト ー モ タ ー ー ニ ウ ー ー シ ウ ー ー ー

ひ ー ば り あ は ー れ あ ー は ー ー れ ー ー ー

ア キ ノ ナ ガ ー タ ノ ー ー シ ー ー ー

ひ ー ば り あ は ー れ ひ ー ば ー り あ ー は ー れ ー ー ー

ア キ ノ ナ ガ ー ウ タ ゴ エ タ ー ノ ー ー シ ー ー ー

二 暗をおかして 今日も行きぬ

風薫る夜に 眼閉ぢつ

枝のさゆらぎ われに語る

「ここに安息あり 來れわが子」。

三 わが面うちぬ 風は寒く

袖をはらひて 夜はふけ行く

枝のさやぎに 尙も聲あり

「ここに安息あり 來れわが子」。

○富士山

犬童球溪

仰ぎ見よや 富士の神山

白雲身に装ひて面は白雪

嗚呼玲瓏 嗚呼崇高

嗚呼秀麗 嗚呼壯嚴

何をか吾等に教へ示す

見よ／＼富士の高嶺

見よ／＼神の御山

仰ぎみよや 富士の神山

見よ／＼神の御山

見よ／＼神の御山

仰げや富士の神山

白雲身に装ひて面は白雪

嗚呼玲瓏 嗚呼崇高

嗚呼秀麗 嗚呼壯嚴

何をか吾等に教へ示す

見よ／＼富士の高嶺

見よ／＼神の御山。

○月下の人魚

八波則吉

月澄む海原 夜ただ我が泣く

なまじ此の面 人に似ざらば

ここの魚類 なべて我が友

友どち群れゐて 我が世を経なまし

慕はし船人 あはれ船人

懐かし船歌 あはれ船歌

○莖

脇 太一

咲きほこれる 野べのすみれ

ゆかしゆかし すみれすみれ

春風にかほる やさし色香

萌ゆるすがた やさし

花すみれ 摘めば色もゆかし

むらさき 天の匂ひ

花すみれ あはれすみれ

いとしき姿 花の小人やさし

花すみれ 野べのすみれ

永久に咲けよ ゆかしすみれ

いとすがた やさし色香

永久に匂へ すみれ。

○春の宵

脇 太一

(甲) 春の夜のおぼろ月 櫻かざしかざし

胡蝶と舞へば あ人も蝶もかすむ。

(乙) あな樂しき春の宵 花はほろ／＼散る

いざや友若草の野に出でて歌ひなん。

(丙) 花に眠る小鳥さめて 調よく歌へ

歌へば灯影も ちららゆらめく。

(丙) 水にゆら／＼灯影うつり

青柳の絲を吹く

のどけき春風 夢に似てやはら。

○旭

犬童球溪

一 仰ぎ見よや東のみ空 昇る旭を

萬象めざめて 森羅蘇生す。

二 仰ぎ見よや東のみ山 昇る旭を

乾坤回りにて 天地明らか。

○雲雀

犬童球溪

人知らぬ雲の上の

天津神に侍る

天使の歌姫か

影は虚空に隠れ 聲は大地に落つる

精神崇高き雲雀

あはれ あはれや。

秋景色

犬童球溪

一 吹く風も心地よく 小田の穂波立たせ

村人の喜びを雀近く踊り 鳥遠く歌ふ。

二 山々は紅葉して 綾や錦織れば

山柿も色づきて眞玉峰に晒し

三 茸狩りて歸るさの 人の群れの歌か

一叢の茂りたる森を越えて

しらべいと妙に

うれし／＼秋のながめ うれしや。

○月夜

脇 太一

月は出でたり

丘の上たかく

千草吹く風

あ さや／＼しろし

ひびく笛の音

胸に流るる。

○聖の御代

犬童球溪

一 岸をうつは恵の波か

天ざかる鄙にも大君の惠尊と

共益ボーカーピース

- 501 流 浪 の 民 (同聲三部合唱曲) シューマン原作 石倉小三郎譯歌 .20
 515 歌劇 ローレライ (同聲、混聲用合唱曲) メンテルスゾーン原作 吉丸一昌作歌 .20
 516 乙女のまごひ (女聲三部合唱曲) 本居長世作 犬童球溪作歌 .20
 517 歡 迎 の 歌 (女聲三部合唱曲) モツアールト原作 井上武士作歌 .30
 (グローリア)
 518 祝 歌 (單聲、混聲共用合唱曲) ソグネル原作 犬童球溪作歌 .30
 (タンホイセル大行進合唱曲)
 519 紡 ぎ の 歌 (女聲三部合唱曲) ソグネル原作 近藤朔風作歌 .30
 (さまよへる和蘭人より)
 520 た そ が れ (女聲三部合唱曲) アプト原作 池尻景順作歌 .20
 521 春 雨 (女聲二部合唱曲) 澤田柳吉作 相馬御風作歌 .20
 522 歡 喜 の 歌 (單聲、混聲共用合唱曲) グルツク原作 犬童球溪作歌 .30
 (オルフオイツより)
 525 森 の 合 唱 (獨唱聯唱及合唱曲) メンテルスゾーン原作 同 .30
 (眞夏の夜の夢より)
 526 ア ル セ ス テ (獨唱及合唱曲) グルツク原作 同 .30
 527 眠 れ 静 かに (獨唱及合唱曲) シューマン原作 石倉小三郎譯歌 .30
 (樂園ミペーリーより)
- 551 清 流 (同聲三部合唱曲) プラームス原作 犬童球溪作歌 .15
 552 秋 の 歡 び (同聲、混聲共用 四部合唱曲) メンテルスゾーン原作 同 .15
 553 秋 夜 (同聲二部合唱曲) 同 脇 太一作歌 .15
 554 埠 頭 の 別 れ (同) ベートーベン原作 犬童球溪作歌 .15
 555 別 れ (同聲三部合唱曲) クルシュマン原作 脇 太一作歌 .15
- 801 春 興 (單聲三部合唱曲) モツインギー原作 矢口莫愁作歌 .50
 (絃樂伴奏付)
 802 歡 迎 の 歌 (混聲合唱曲) モザート原作 井上武士作歌 .50
 (グローリア)

最新中等唱歌曲集 (伴奏付) 若狭萬次郎編 1.30



發行所

東京市芝區松本町四十四番地
 合資 共益商社書店
 電話三田(45)四〇五六・四〇五七
 振替東京一五八〇

製 復 許 不

印刷所 共益商社書店印刷部

發行所 東京市芝區松本町四十四番地
 合資 共益商社書店
 代表者 白井保男

編者 若狭萬次郎

定價金壹圓五拾錢

昭和四年七月二十一日印刷
 昭和四年七月二十四日發行